

学年	単元名	児童	場所	指導者
6年	「中学校へ羽ばたく自分を見つめよう」	6年1組 40名 さくら 2名	6年1組 教室	町田 涼介 (古賀千尋)

**育てたい資質・能力**

◎道徳科において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

**②人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情（道徳的心情）**

自分の特徴を知ること、自分を見つめ直し、自分自身を伸ばしていこうと考える姿勢

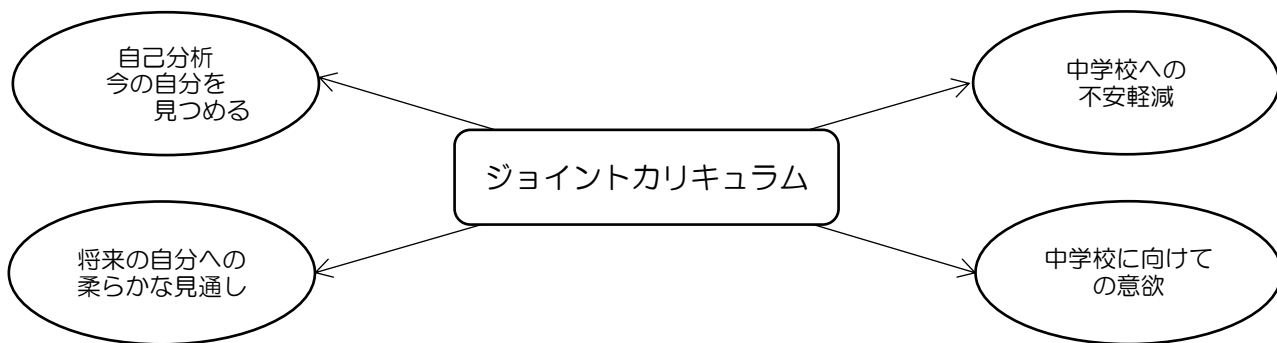
**1 研究とのかかわり**

本単元は、「道徳の時間」を中心とした総合単元的な学習として、卒業に向かう6年生が自分自身を見つめ直し、新たなスタートに向けてあるべき姿を模索し、希望をもって中学校に羽ばたいていくことを目指して、新たに設定した。最高学年として学校のために活動することを目指してきた6年生が、中学校を意識し始めるこの時期に様々な教育活動を関連付けていくことは実際に行っていることである。それを一つの総合的単元としておさえ、カリキュラムとして位置付けることでより計画的・具体的に指導をすることができると考えた。これは、6年生から中学校へのつながりを意識したものであり、これを「ジョイントカリキュラム」とおさえることとした。

ジョイントカリキュラムは、小学校卒業がゴールではなく、新たなステージの幕開けであること、中学校という新たな環境への不安を軽減し、新たな期待感と明確な目標をもたせることを大きなねらいとしており、特別活動と大きく関連している。そこで、特別活動「将来のわたし」をオリエンテーションと位置付け、その時間を通して生じた子どもたちの期待や不安、中学校に向けて身に付けていきたいと感じる能力について、道徳の時間に学んでいくという単元構成とした。そうすることで、今後に向けての課題や身に付けていきたい資質・能力を自ら見つけ出し、自分なりに考えていくことができると考えた。その際には、教師側からの「中学校に向けてどうする」という言葉が押し付けにならないように配慮しつつ、子どもたちが自然に中学校への意識がもてるような手立てが重要である。終末の説話に「中学生の話」を用いたり、導入に「中学校での事例」を提示するなどの工夫を考えていく。

ジョイントカリキュラムを作るにあたり、4つのステージに分けることとした。本時は、その中で「自分自身を考える」ステージである。各教科や特別活動を通して、今の自分について考える場を設定することで、自分自身のこれからを考える場を作ることになる。そこから「道徳の時間」を通して、様々な価値から自分を見つめ直し、自分なりの目標や中学校へ向けての意欲をもたせ、その上で他者や集団・社会といった様々なものに関わる自分を見つめさせていきたい。

なお、本時は中学校に向けた授業としての一環として、50分授業として行う。



# 6年 ジョイントカリキュラム

## 特別活動

単元に向けた  
事前アンケート

将来のわたし  
単元のオリエンテーショ  
ンとして、学習テーマを  
提示し、単元の見通しを  
もたせる。

## 道徳

10月

生命の尊さ

D17

勤労・公共の精神

D14

礼儀

B8

正直・誠実

A2

11月

公正、公平、社会正義

C13

## 各教科

学校行事  
地域との関連

10月3日  
学芸会

最高学年として頑張ってきた自分たちを見  
つめ、これまでの活動を振り返って、一人一  
人の良さを自覚できる時間

最高学年として

中学校に羽ばたく自分を見つめよう

自分自身を考える

集団・社会とのかかわりを通して考える

未来に向けて

個性の伸長

A4

希望勇氣、努力と強い意志

A5

節度・節制

A3

大人への準備

12月

善悪の判断、自律、自由と責任

A1

縦割り班活動の計画

よりよい学校生活

集団生活の充実

C16

2学期の振り返り

勤労・公共の精神

C14

学級や係の仕事を見直そう

1月

規則の尊重

C12

国際理解・国際親善

C18

2月

相互理解・寛容

B11

親切・思いやり

B6

お世話になった  
学校に

感謝

B7

友情・信頼

B10

3月

家族愛、家庭生活の充実

C13

希望をもって

希望勇氣、努力と強い意志

A5

よりよく生きる喜び

D22

図工

「12年後のわたし」

将来の自分を

想像する

11月24日

縦割り班

お弁当パーティー

社会科

「わたしたちのくらし

と日本国憲法」

基本的人権

12月9日

縦割り班集会

国語

「随筆を書こう」

忘れられない言葉

冬休み

総合的な学習

「世界の国々に

目を向けよう」

家庭科

「共に生きる生活」

私の気持ちを

伝えよう

国語

「話し方を工夫し、

スピーチしよう」

今、ぼくは、わたしは

3月2日

6年生を送る会

家庭科

「成長した私たち

中学生に向かって」

3月4日

市民委員会もちつき

3月中旬  
奉仕作業

中学校は新たなスタート！今までの自分をさらに磨いて中学校へ羽ばたくぞ！

研究内容1～「単元における学習過程の改善＜単元構成の工夫＞」～アクティブ化シートA

最高学年として → 自分自身を考える → 集団・社会のとのかかわりを通して考える → 未来に向けて

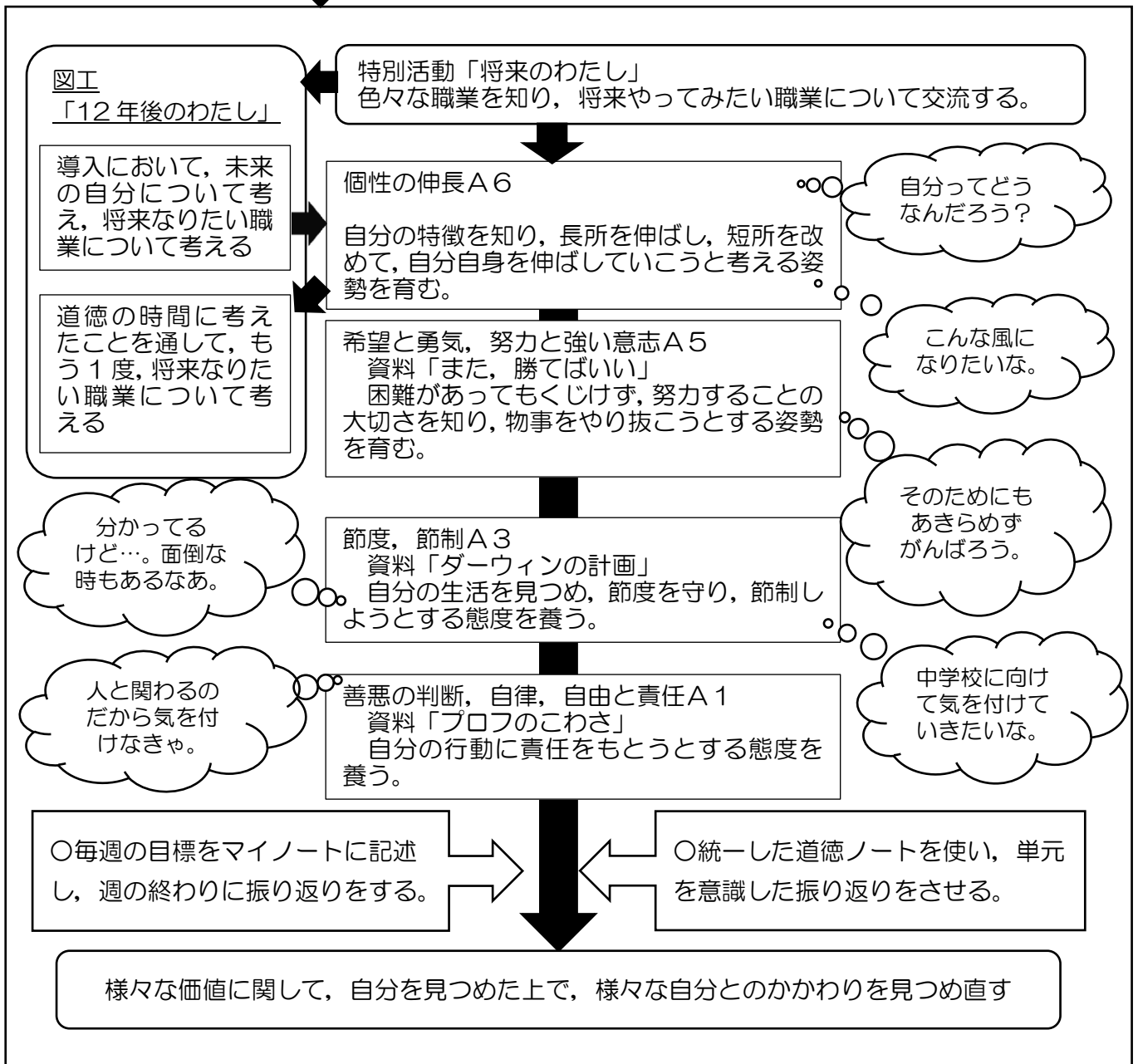
4月から学芸会まで朝日小の最高学年としての姿

中学校に向けて考えていくにあたって、まず自分を見つめ直す姿

自分とのかかわりの中にある様々なことを通して、今の自分を見つめ直し、中学校に向けて進むべき姿を考えていく姿

中学校を新たなスタートとして、自分なりに羽ばたこうとする姿

中学校へのバトンの受け渡しをイメージし、今後出会うであろう「道徳的判断を必要とする場面」を意識的に提示し、考えさせる。



## 研究内容 2 ～「一単位時間における学習過程の改善＜本時の手立ての工夫＞」

### ～アクティブ化シートB-②

#### ②対話重視～友達との対話を通して、自分との対話を広げる工夫

本時における価値（A 4個性の伸長）においては、自己の生き方を多面的・多角的に捉えることが必要である。

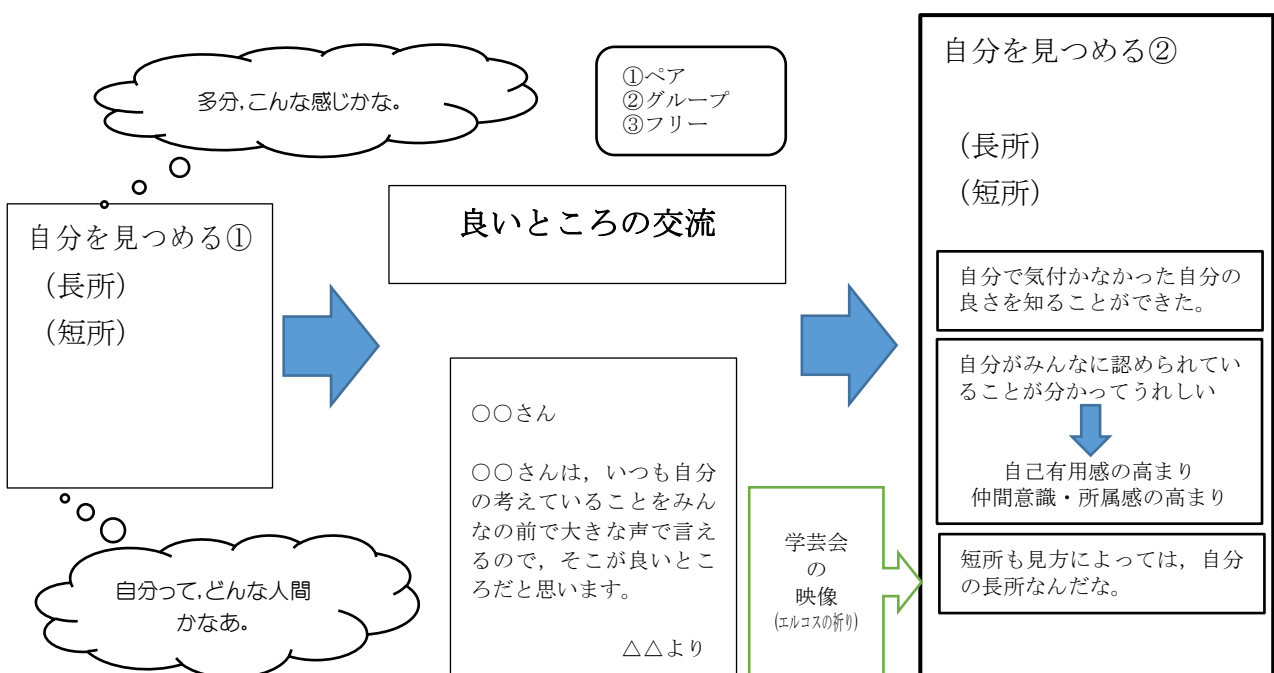
##### ○多面的に捉えることとは…

- ・自分の長所と短所の両面を捉え、自分が気付いた長所に目を向け、現状を維持し続けること
- ・自分の短所もしっかりと見極めること

##### ○多角的に捉えることとは…

- ・短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、それを課題として改善・努力を重ねていくこと
- ・短所も見方によっては、長所になり得ることを自覚して、今の自分を見つめること

本時では、まず自分の長所と短所について考えさせることで自分を見つめる時間を設定する。そうすることで、自己を多面的に捉えることができると考える。しかし、自分の良さは自分自身では分からないことが多く、友達や家族といった他者からの指摘で気付いたり、実感したりすることが少なくない。そこで、互いの良いところを、付箋を使って伝え合ったり、友達からの付箋と自分で考えた長所や短所を比較したりする活動を取り入れることで、自己を多角的に捉えることもできると考える。その際、より多くの友達からの意見があると良いこと、友達からもらう良いところカードの数に大きな個人差が出ないように配慮しなければならないことなどを考えて、①ペアで、②グループで、③フリーで、といった段階に分けて活動させる。そうした活動を経てから、「今の自分についてどう思うか」と改めて考えさせることで、様々な視点から自分を見つめることができ、単元の目標である「中学校へ羽ばたく自分を見つめよう」のスタートラインに立つことができると考えた。



## 2 単元について

### (1) 単元における児童の実態

本学級の児童は、学力テストの質問紙における回答結果や自校での道徳アンケートから、

- ・きまりを守ることや善悪の判断をすることはでき、自分の心と葛藤しながらも正しい行動を取ろうとすることができる。
- ・「人の気持ちが分かる人間になりたい」と考えているが、相手にどう思われるかが不安で、実際の行動に表すことができずにいる子が多い。
- ・友達に対しても、遠慮しがちになってしまうと考えている子が多い。
- ・自己肯定感が低い子が多く、自分を過小評価する傾向にある。

といった結果が見られた。

日常生活の中からは、5年生までは2クラスだったが、1クラスにまとまり、人数が増えたために自分の思いや考えや主張しづらくなった子や多数の考えに流されてしまう子も見られる。一方で新たな友達関係を構築し、今までとは違う姿を見せる子や集団の中で自分の存在を一生懸命アピールしようとする子も見られる。全体的には、言われたことややらなければならないことに対しては真剣に取り組むが、自分たちで何かに取り組んだり、新たな活動に挑戦したりすることが苦手な子が多い。

### (2) 指導の手立て

本単元では、各教科・特別活動の中で、自分を見つめ直す機会を設定し、そこから今の自分が中学校へ羽ばたくために考えていかなければならない価値について「道徳の時間」を中心に学んでいく。また、「道徳の時間」には、単元を通した道徳ノートを用い、単元を意識した振り返りをさせ、前時とのつながりをもたせる。

## 3 本時の学習

### ① 主題名 「今の自分を見つめて」(A 4 個性の伸長)

#### ② ねらいとする価値

平成27年7月に出版された小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編では、高学年は、「自己の生き方を見つめ、自分の特徴を多面的・多角的に捉える必要がある。そうすることにより、自分自身の長所と短所の両面が見えてくる。」と示されている。自分の歴史を振り返る場面を設定し、長所と短所を考えさせることで自分の特徴を多面的に捉えさせ、互いに良いところを書き合って交流する場面を設定することで自分の特徴を多角的に捉えさせたい。

#### ③ 本時における児童の実態

本学級の児童は、事前アンケートより、将来の夢をはっきりともっている子は半数近くいるが、そのための具体的な目標やビジョンをもっている子はほとんどいない。また、自分を過小評価する傾向にあり、長所よりも短所に目が行きがちである。一方で、そんな自分を変えたいと強く思う子も多く、これからの自分を前向きにとらえようとしている子が多いという実態がある。本時では、友達との交流において、「自分には他にもいいところがある」「必ずしも短所とは限らない」といった前向きな思いを引き出し、自分に自信をもたせた上で、今の自分に必要なことを考えさせていきたい。

#### ④ 本時の目標

自分の特徴を知り、長所を伸ばし、短所を改めて、自分自身をより良くしていこうとする心情を育てる。



終末 5分	7 卒業生の文集を聞く。	<input type="checkbox"/> これからの生活にプラスのイメージがもてるような説話を行う。
	8 道徳ノートに今日の学習を通して、感じたことや気付いたことを書く。 「中学校に向けて、〇〇を意識して頑張りたい。」 「自分がどんな人間か少しわかった気がする。」 「〇〇を直さなきゃ、いけないな。」	<input type="checkbox"/> 単元を意識させ、中学校に向けた自分をイメージさせる。

**\*実践検証で期待する児童の学びの姿**

○自分なりに今の自分を見つめ、より良い自分にならっていくための目標をもとうとする姿。

**⑥資料**

○自分シート

長 所

短 所

○自分の思い・考え  
月 日  
テーマ

名前

中学校に羽ばたく自分を見つめよう

